

組立て方法①

△注意 - ハシゴの組立て時にラチェットレンチを使用の場合は締め過ぎによるボルトやナットの破損の恐れがある為
締め過ぎには十分注意してください。

- 1 ③ステップパイプの溝に②ステップラバーを通します。(5本) [図-1]

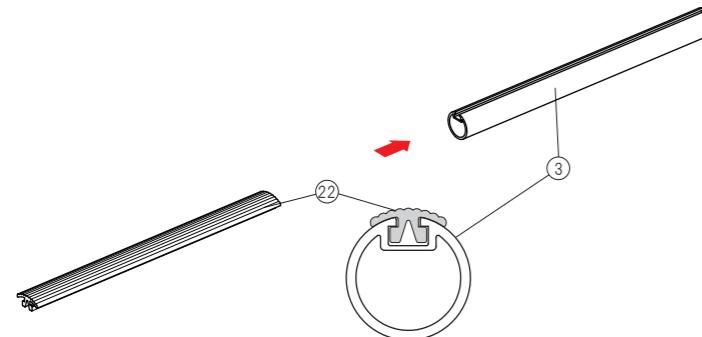


図-1

- 2 ①本体パイプセット(R)と②本体パイプセット(L)を③ステップパイプ5本で連結させます。
①本体パイプセット(R)に組み付けてある「ステップ金具」のネジ山部が下になるようにして③ステップパイプ端の丸穴を下に向かた状態で差し込み、下から⑩六角ボルトセットM6にて仮締めします。
※品番ラベル付きの③ステップパイプは最上部に取付けてください。

△注意 - この時、必ず⑩六角ボルトセットが1~2山程度掛かる状態の仮締めにしておいてください。(5か所)

次に反対側から②本体パイプセット(L)を③ステップパイプに差し込み⑩六角ボルトセットM6にて仮締めします。
①②本体パイプセットと③ステップパイプの連結が出来たら仮締め状態の⑩六角ボルトセットM6を
しっかりと締付けます [図-2]

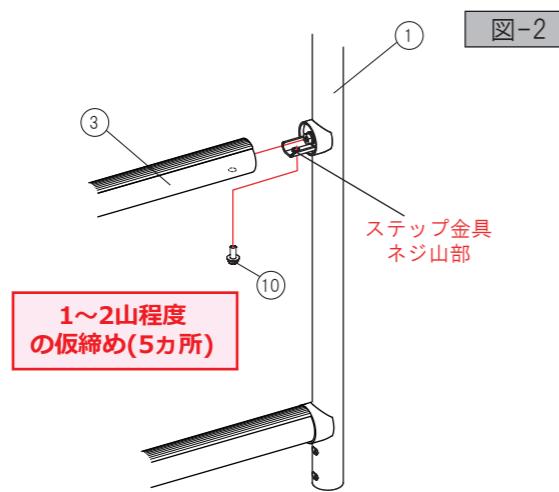


図-2

- 3 「2」で組立てた本体パイプの上下の先端から④クランプの向きに注意しながら通し ⑨バインドネジM6、⑫平座金M6、
⑬バネ座金M6、⑭袋ナットM6の順で図の向きで仮組付けします。
※この段階では仮組みの状態にしてください。 [図-3]

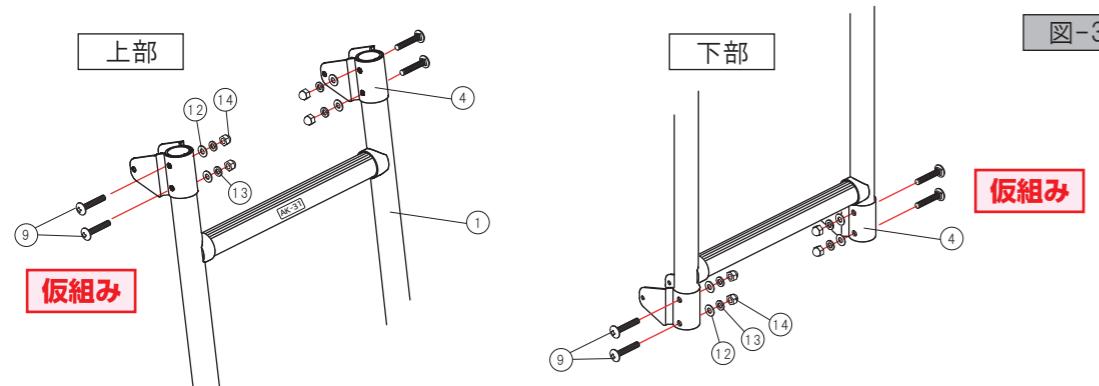
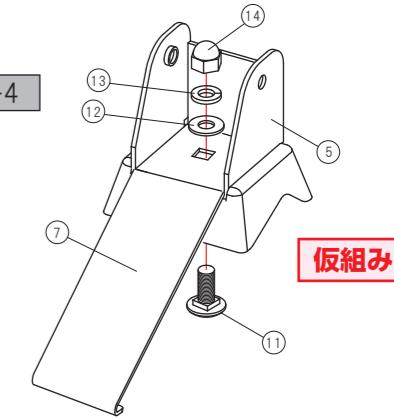


図-3

組立て方法②

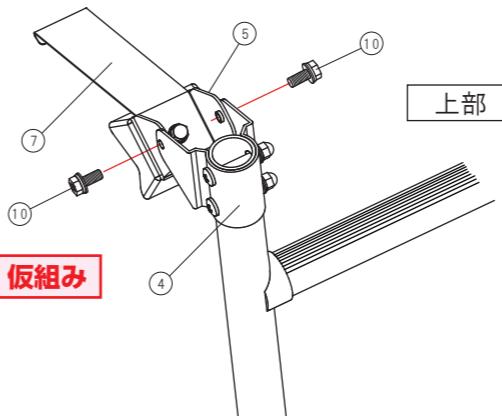
- 4 ⑤ベース金具上に、⑦フック上を⑪角根ボルトM6、
⑫平座金M6、⑬バネ座金M6、⑭袋ナットM6にて仮組付けします。
※この段階では仮組付けの状態にしてください。 [図-4]

図-4



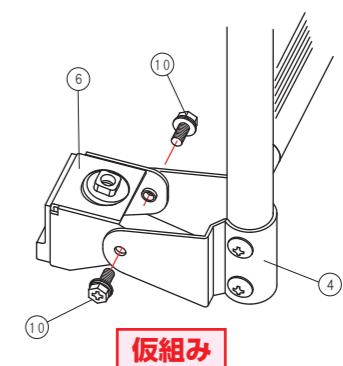
- 5 「3」で本体パイプに仮組付けした④クランプに、「4」で組立てた
⑤ベース金具上と⑥ベース金具下を⑩六角ボルトセットM6にて
仮組付けします。
※この段階では仮組付けの状態にしてください。 [図-5]

図-5



上部

下部



仮組み

取付け方法①

- 1 ハシゴはバックドアの中央に取付けます。 [図-6]
ハシゴの⑦フック上の先端をバックドアと屋根の隙間に引っ掛け、 [図-6]
ナンバープレートの中心から左右に191mmの所にハシゴの⑥ベース金具下のゴム部中心がくるように
位置を合わせます。 [図-6-A]
そして後ろから見てハシゴが垂直(90度)になるように上部の位置を調整します。
取付位置を確認後、バックドアの⑦フック上と⑧フック下が引っ掛かる
部分に⑪保護シートを少し内側から貼付けます。 [図-6-B]

図-6

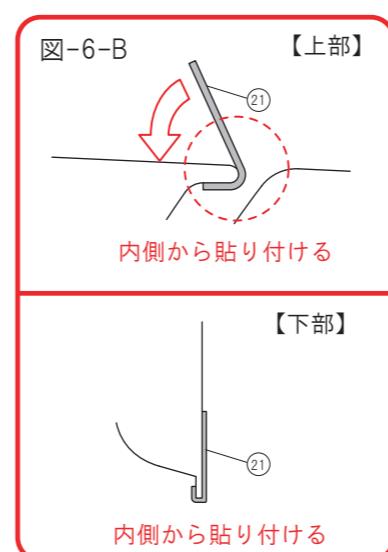


図-6-B 【上部】

内側から貼り付ける

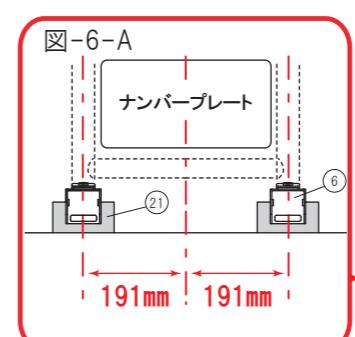
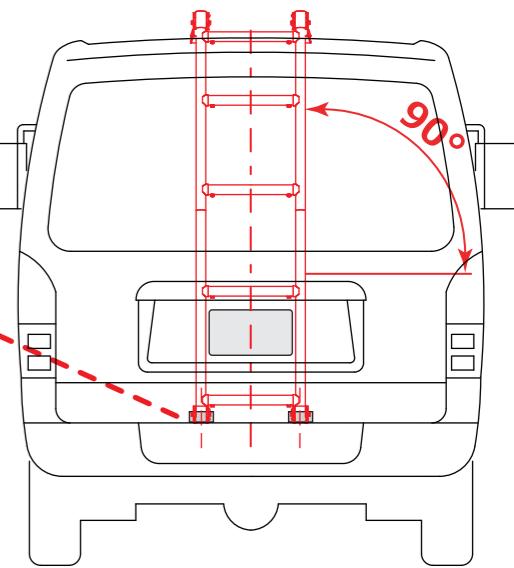


図-6-A 【下部】

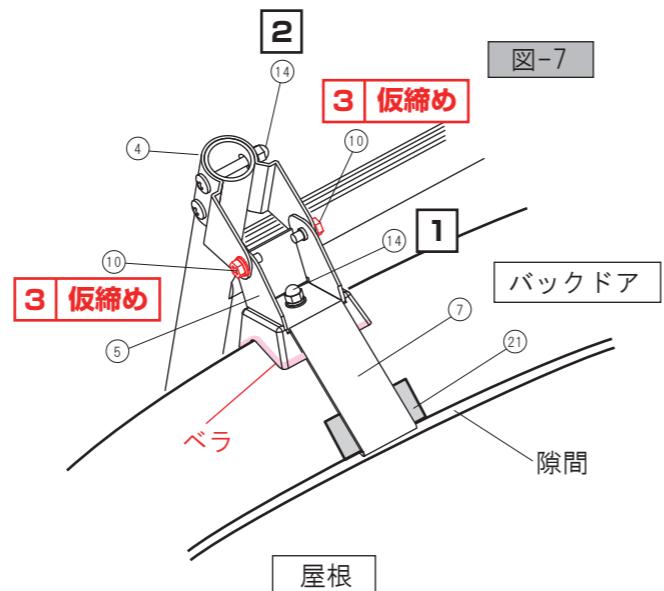
内側から貼り付ける



取付け方法②

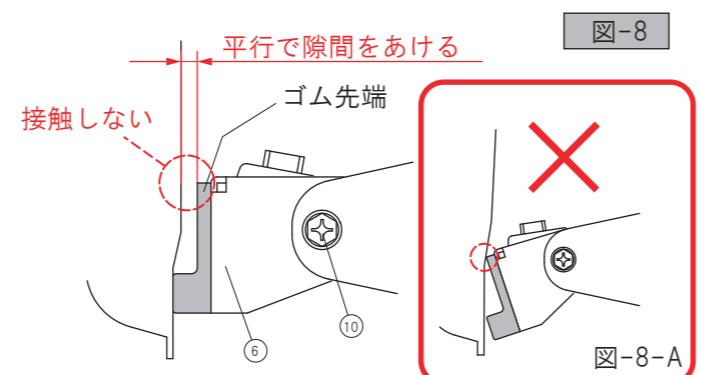
- 2 ⑦フック上を引っ掛けた状態で⑤ベース金具上のゴム部の裏面がバックドアの曲面と馴染むように調節します。この時、⑤ベース金具上のゴムの余り“ベラ”が外側に出るように整えてください。調整後、初めに①⑦フック上の⑭袋ナットM6を本締めし、次に②④クランプの⑭袋ナットM6を本締めします。 [図-7]

△注意 — ③の⑩六角ボルトセットM6はこの段階ではまだ仮締めの状態にしてください。



- 3 下部は、「取付け位置」を守りながら⑥ベース金具下のゴムの先端がバックドアの面と平行になるように⑥ベース金具下の角度を調整し、⑩六角ボルトセットM6を本締めします。 [図-8]

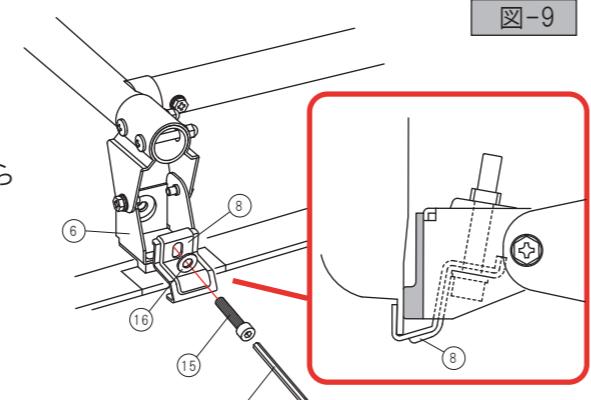
△注意 — ゴムの先端がバックドアと接触したままで使用するとバックドアが変形します。 [図-8-A]



- 4 ハシゴの取付け位置を守り、バックドアを半分開いた状態で⑧フック下の先端をバックドアの下端に引っ掛け、⑥ベース金具下のナット部に⑯キャップボルトM8、⑯平座金M8を⑰L型レンチにて左右均等にゆっくり締め込みます。締め込む際はハシゴが下がるように軽く手などで加重を加えながら締め込みを行ってください。

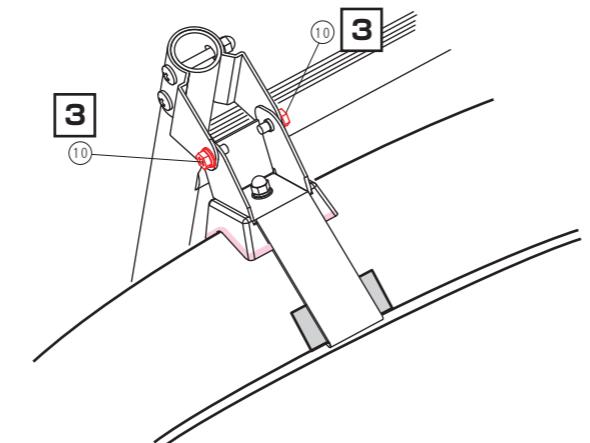
「取付け方法③-6」で適正な締付け確認を行います。 [図-9]

※⑥ベース金具下のナット部には、かじり等の焼付き防止剤が塗布しており、白くなっていますが使用上問題はありません。



- 5 ある程度、下部の締め込みができたら、上部で仮組付けの状態にしてある③⑩六角ボルトセットM6をしっかりと締付けます。 [図-10]

△注意 — 運転席側・助手席側、両方忘れずに行ってください。



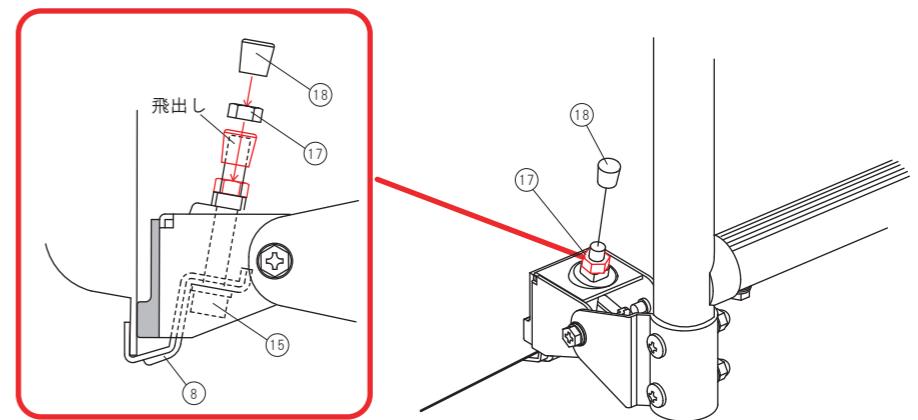
取付け方法③

- 6 最終の締付け状態の確認を行います。作業は2人で行ってください。ハシゴを装着後、1人がゆっくりとハシゴに乗り、もう1人が下から⑧フック下の状態を確認します。⑧フック下の引っ掛かり部分をつまんで上下左右に揺らしてもズレ動かない状態が最も良い状態になります。⑧フック下をつまんだ際に“カタカタ”と動くようであれば締付不足の為、動かなくなるまで再度締込みを行ってください。逆に、必要以上に締め込み過ぎるとフックが外れ易くなり、バックドアが変形する恐れがありますので注意してください。

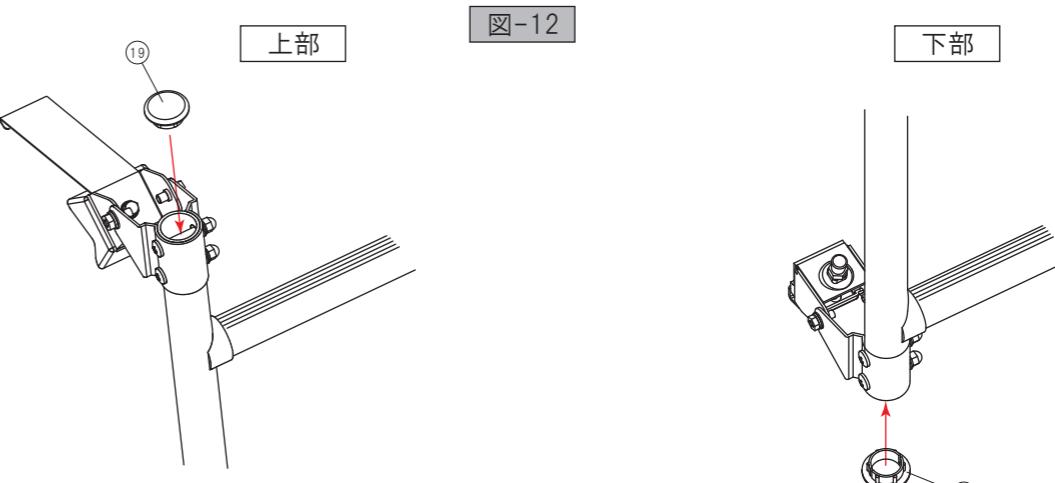
△注意 — 作業は必ず2人で行ってください。
ハシゴに乗る際はゆっくりと気をつけて乗ってください。

- 7 下部の⑧フック下にユルミが無い事を確認し、⑯キャップボルトM8の先端飛出し(ボルトの余り)部分にユルミ止めの⑰六角ナットM8を根元まで回し、しっかりと締め込んでください。最後に⑯安全キャップを差し込んでください。 [図-11]

図-11



- 8 ハシゴ本体パイプの上下部先端に⑯本体パイプ栓を差し込みます。 [図-12]



- 9 最後にハシゴを前後左右に揺すり、ガタツキが無い事を確認してください。ガタツキがある場合は使用せず、再度取付け方法を確認してください。

△注意 — ハシゴ装着後の初期段階では走行によるユルミ、ドアの開閉によるユルミ、ハシゴの昇降によるユルミが発生します。必ず定期的に増し締めを行い、状態を確認してください。